

滋賀の高校生が選んだ！ しがはいすくーるおすすめ本50選 (2019年度優秀作品)

(氏名の有無は本人の希望です) (原則、著者名の50音順に並んでいます)

発行2020年7月 滋賀県教育委員会事務局生涯学習課



『三日間の幸福』

三秋 絳 著
KADOKAWA/
メディアワークス文庫

自分の寿命を一年一万円で売ったクスノキと、その残り数カ月の余生を監視するミヤギ。ただ意味もなく長く生きるよりも、短い人生を大切に生きる方が幸せなのかもしれない。これからどうしたらいいかわからないクスノキは、ミヤギとともに本当の幸せを見つけていく。お金、時間、愛…。何が人生に必要なものなのかについて考えさせられる。最後に、驚きと温かい思いが胸にあふれる一冊。

(守山高校2年 山口 詩織さん)



『正義という名の凶器』

片田 珠美 著
ベストセラーズ

インターネットの急速な発展により、人々は他人の「間違い」を簡単に指摘、攻撃する手段を手に入れた。芸能人や政治家の失敗に対するSNSを通じた過剰なパッシングは既に珍しい光景ではありません。これは時に無関係の一般人をも巻き込み、正義を装った凶器となって多くの人々を傷つけます。この凶器を振りかざす彼らが抱える「正義依存」という病の本質や対策に迫る、現代人必読の一冊です。

(守山高校 2年生)

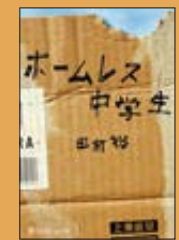


『星の王子さま』

サン=テグジュペリ 著
内藤 濯 訳
岩波書店

ある日、サハラ砂漠のまんなかにも不時着した飛行士が、不思議な子どもに出会った。本当のことしか知りたがらない男の子、星の王子さま。彼の目に見える世界は一体、どう映ったのだろうか。たくさんの力、疑問、温もりが詰まったお話。星を転々としながら本当を見つけるのは、そう難しい事じゃないのかもしれない。小説をよく読む人も、そうじゃない人も、次々にページをめくりたいくなる、そんなステキな一冊です。

(草津高校3年 土井 恵美香さん)



『ホームレス中学生』

田村 裕 著
幻冬舎

この本は、お笑い芸人の麒麟の田村裕さんの中学生時代を中心とした話です。中2の時父親の「解散!」の一言で始まった公園でのホームレス生活。そこでどんなことが起こったのか、ここからどのようにして夢であるお笑い芸人になったのか。そこには多くの出会い、助けがあった。家族の大切さ、自分の周りにいるいろいろな人たちの大切さを改めて感じさせてくれる、感動のつまった、笑いあり涙ありの最高の本です。

(近江兄弟社高校2年 宇田川 拓海さん)



『鋼のメンタル』

百田 尚樹 著
新潮新書

「失言と暴言を繰り返す男」とマスコミから散々に叩かれても自分の信念を貫き続けてきた作家、百田尚樹さんによる爽快な精神論。「百年後の世界であなたを覚えている人もほとんどいないでしょう。」もし今挑戦することを躊躇している人や少しの勇気をなかなか持てない人がいたら、この言葉を聞いたら心が軽くなるのではないだろうか。ドンと背中を押してほしい時、是非この本を読んでほしい。

(守山高校2年 佐々 比香莉さん)



『吾輩も猫である』

赤川 次郎/新井 素子/
石田 衣良/萩原 浩/
恩田 陸/原田 マハ/
村山 由佳/山内 マリコ 著
新潮文庫

この本は著者が8人いて、それぞれの著者が自分の思うように「吾輩は猫である」を書きかえ、アレンジされた完成した本です。別々の人たちが書いているので、一匹一匹の猫に個性が出ており、同じ猫でも、様々な視点から書かれているので、8人の著者が同じ夏目漱石の猫とは思えないような場面も多々あり、8人の著者が一気に楽しめるといった猫好きにピッタシの本です。

(水口高校1年 林 虎河さん)



『のび太という生きかた』

横山 泰行 著
アスコム

のび太君を知らない人はいないと思う。アニメ「ドラえもん」は世界中の人々に人気があるからだ。この本はのび太君を別の視点から見ている。のび太君は泣き虫でドラえもんによってばかりいっている人とも多いだろう。この本を読むと、自分より他人を優先するやさしさや何事にも諦めず立ち向かう姿勢など普段気づかない人間性が伝わってくる。のび太が未来を変えることができたように僕達の未来のために読んでみてはどうですか。

(甲西高校1年 萬里小路 昂俊さん)



『記憶屋』

織守 きょうや 著
KADOKAWA/
角川ホラー文庫

「魔法のように人の記憶を消してしまえる」都市伝説として語られるような記憶屋の存在を遼一が確信したのは、真希、杏子、そしてもう一人の人物、この3人が同じように、「ボッカリ」と一部の記憶を失くしたことがきっかけだった。そして遼一が記憶屋の真相を暴こうとするにつれて、記憶を消したいと願う人々の悲しくもあたたかい物語が明らかになる。読み進めるほどに、いくつもの驚きと切なさに遭遇します。

(守山高校 1年生)



『ディズニー式サービスの教え』

小松田 勝 著
宝島社新書

この本は、世界にも誇るディズニーのサービスの流儀が細かく説明されているからです。ディズニーに行くたびに毎回キャストのサービス精神の高さに驚かされます。これにはウォルトの願いが大きく影響しているのがこの本を読んで分かりました。今、人がわすれがちになっている思いやりの心をウォルトの心念とともに深く著されている本となっています。ディズニーに興味のある人、将来接客業をしたい人にはおすすめだと思いました。

(守山高校 2年生)



『ぼくらの七日間戦争』

宗田 理 著
KADOKAWA/
角川文庫

僕が紹介する本は、宗田理の『ぼくらの七日間戦争』です。子ども達は「荒川工機」というつぶれた会社を「解放区」として集い「大人と闘って子どもたちだけの世界」をつくる「解放区計画」を実現させるため仲間を集めていきます。大都会の空間で大人と闘う子どもたちの七日間が書かれた一作です。キャラクターの個性もさまざまユニークです。ぜひ読んでみてください。

(水口高校1年 川村 祐貴さん)



『ナミヤ雑貨店の奇蹟』

東野 圭吾 著
KADOKAWA/
角川文庫

悪事を働いた3人が逃げ込んだのは既に閉店しており誰も住んでいない雑貨店だった。そこに突然、悩み相談の手紙が届くが店の周囲に人影は全くない。3人は手紙のやり取りをしているうちにその手紙が過去から届いていることに気づく。3人は悩める人々を救うことができるのか。そして次第に明らかになっていくナミヤ雑貨店の秘密とある施設との関係。全ての人の思いと人と人の繋がりが感動を呼ぶ。

(国際情報高校1年 田中 神優さん)



『三日間の幸福』

三秋 絳 著
KADOKAWA/
メディアワークス文庫

あなたは、自分の寿命を売れるとしたら、1年あたり何円で売れると思いますか。本作は命の値段や幸福など哲学的なことを考えさせられる作品です。自分の人生とは。価値とは。誰もが一度は悩む壁にぶち当たった時に読んでもらいたい一冊です。私が思う、この作品の見所は、主人公が抱えるリアリティのある苦悩がえがかれていることです。最後に、このタイトルの意味を知ったとき、誰もが感動すると思います。

(大津高校 1年生)



『学校のぶたぶた』

矢崎 存美 著
光文社文庫

スクールカウンセラーの山崎ぶたぶたは見た目はぶたのぬいぐるみ、声は40代のおじさんという少し変わったカウンセラーだ。何に悩んでいるのかわからない、話したくない、いじめ、家族関係、友達、将来ハゲるかも、とぶたぶたのもとには悩みを抱えた多くの相談者が来る。最初は誰もがぶたぶたを見て驚くが、可愛い見た目、そして何より相談者の心に寄り添い続けるぶたぶたに少しずつ心を開いていく。ぶたぶたの人柄に心温まる物語。

(守山高校1年 齋藤 梨花さん)



『十二人の死にたい子どもたち』

沖方 丁 著
文春文庫

廃病院に集まった十二人の子ども達。子ども達の目的は安楽死をすること。病院の一室ですぐに実行される予定だったがベッドにはすでに一人の少年が横たわっていた。彼は何者か、これは殺人か、このまま実行してよいのか。実行するためのルールは全員一致。議論が実行か十二人の意見が分かれる。議論の中でぶつけ合うそれぞれの死にたい理由、十代の切ない思いに自分を重ねて心被打れました。生きることを深く考えられる作品です。

(草津高校3年 中川 真衣さん)



『友だち幻想』

菅野 仁 著
筑摩書房

「クラスはひとつ、みんないっしょだ」という先生の話を聞いて、違和感を感じた人はいませんか。友達と仲良くなる、友達を大切にすることは大切ですが、気が合わない人も、無理をしても関わって仲良くしなければいけないのでしょうか。そんな難しい「人づきあい」に悩んでいる人が読めば、きっと少しは気が楽になります。「この人と付き合えて本当によかったな」と思える「人づきあい」をあなたもしてみませんか。

(守山高校1年 大道 和香菜さん)



『そして、バトンは渡された』

瀬尾 まいこ 著
文藝春秋

“家族は大切”当たり前すぎて毎日の中で意識しなくなっている気持ちを思い出させてくれるお話です。主人公の優子には、父親が三人母親が二人いて、十七年間で家族形態は七回も変わっています。けれど優子はまったく不幸ではないのです。寂しいことが不幸ではないと、どの親にもまっすぐ向き合い、想い合う日常を描いた作品です。2019年本屋大賞を受賞したあたたかい気持ちになれる一冊です。

(能登川高校 2年生)



『三四郎』

夏目 漱石 著
KADOKAWA/
角川文庫

東京の大学に進学するため、三四郎は熊本から汽車で都会へと旅をする。「不愉快でたまらない。」東京のものめずらしさに衝撃を受けた三四郎は、大学へと進学する。色々な出会い、そして予想だにしない出来事、上手くいかない三四郎の恋。明治時代の青年は東京でどのようなものに会い、時に起こるハズニングをどのように切り抜けるのか。今とは違う視点から見た、三四郎の青春物語が東京で繰り広げられる。

(守山高校1年 酒井 諒さん)



『おおかみこどもの雨と雪』

細田 守 著
KADOKAWA/
角川文庫

大学生の花は一人の男に恋をした。しかし、その男はおおかみ男だった。花はそれを受け入れ、二人は愛し合い、親になる。しかし、突然、父が死んでしまう。残された母一人で2人の子供を育てることになってしまった。おおかみ子供である2人を人間がおおかみかどちらの道でも生きていけるように田舎町に移り住むことを決意した。母は2人を無事に育てることができるのだろうか。また2人はどちらの道に生きていくのか。

(国際情報高校2年 野原 信長さん)



『世界のオモシロい仕事集』

盛田 則夫 著
中央公論新社

世界には、私たちが想像もつかないようなおもしろい仕事がたくさんあります。例えば、他人の葬式で泣くことを仕事とする「泣き女」や、「道端に体重計を出し、」体重をはかってくれる「体重はかり屋さん」などです。一見必要のない仕事にも思えますが、「なかには、数百年にもわたって存続している」ものもあり、「ちゃんとニーズと見合った収益がある仕事」なのです。仕事の背景を知る事によって社会の様子や文化も学べるでしょう。

(守山高校 2年生)



『陸王』

池井戸 潤 著
集英社

様々なランニングシューズが開発、販売されている今この時代、いまだ足袋を作っている会社が埼玉県にあった。「こはぜ屋」。創業百年、二十七名の従業員を抱える老舗である。足袋を生業としてきたこはぜ屋は、時代の流れにより廃業の危機に瀕していた。社長の宮沢紘一は、先代から受け継いだ会社を潰させまいと日々奮闘していたのだが、そんな時、新しいビジネスの話が舞い込んでくるのであった。

(国際情報高校2年 山中 翔真さん)



『世界から猫が消えたなら』

川村 元氣 著
小学館

あなたは、自分の命を引き換えに世界から大切な物を消す選択ができますか。この作品は、悪魔と取引を行い世界からさまざまな物を消し寿命を延ばして生きていく男性の物語です。電話や映画、時計。生活になくは困るものや大切なペット。この作品では、身近な命の大切さや生きていることのすばらしさ、自分の人生で何を大切にしていけばいいのかがよく考えさせられ人生のためになる作品です。

(大津高校1年 上田 智聖さん)



『君の臍臓をたべたい』

住野 よる 著
双葉社

私が紹介したい本は『君の臍臓をたべたい』という小説です。この作品は主人公である春樹とクラスメイトの桜良との秘密の関係が描かれています。桜良が病気で戦い続ける日々の生活の中で正反対の性格の春樹と少しずつ心を通わせていく場面が見所だと思います。そして、明日が来るのが当たり前ではなく、大切なことであるという作者の思いが強く感じられる所魅力の一つです。皆さんも是非読んでみてください。

(大津高校1年 北脇 奈歩さん)



『8年越しの花嫁』

時海 結以 著
小学館

8年という月日が経ち、結婚したある夫婦の話です。結婚式直前、意識不明となった花嫁(麻衣)を新郎(尚志)は何日も何日も麻衣が目覚めずのを待ち続けます。そんなある日、二人に最高の奇跡が訪れるのです。麻衣が尚志を思う気持ち、尚志が麻衣を思う気持ちに涙なしでは読めません。あなたなら、意識のない愛する人をどだけ待てますか?ぜひ二人の奇跡の訪れをのぞいてみてください。

(能登川高校 1年生)



『フォルトウナの瞳』

百田 尚樹 著
新潮文庫

自動車塗装工として働く木山は、幼い頃に火事で家族を失い孤独な日々を送っていた。ある日、木山は突然「他人の死の運命」を視る力を手に入れる。木山は他人であるが、死を迎える人々を助けていく。しかし、運命を変えてしまっているため人を助ける分、木山の寿命が縮んでいく。そんな中、木山は初めて彼女ができる。幸せな日々を過ごしていたが彼女がもうすぐ死ぬことがわかる。木山は自分を犠牲にしてまで彼女を守るのか。

(守山高校1年 野々村 碧衣さん)



『水族館ガール』

木宮 条太郎 著
実業之日本社

三年間市役所に務めていた嶋由香は緊急要請により市立水族館「アクアパーク」で働くことになった。担当はイルカ課で毎日無愛想な先輩・梶と顔を合わせることに。初めは何もできなかった由香だがイルカと向き合ううちにイルカの「遊び相手」になることを学んでいく。個性豊かな水族館スタッフたちと由香がさまざまな経験と失敗をしながらも成長していき、水族館の裏側を知ることができ生き物好きのための本です。

(守山高校1年 河南 柚寿さん)